

<東北地区納税貯蓄組合連合会長賞>

税がつなぐ地域の絆

喜多方市立高郷中学校

3年 山口 薫

先日、私の住んでいる地域で大きな橋の工事が行われていました。その事を初めて聞いたとき、私は、

「別に、通れる時間が決められただけだし、特に問題ないか。」

と思っていました。そんなことを思っているうちに、工事が始まっていきました。

工事初日。いつも何気なく通っていた橋にバリケードがされていました。目の前にあるのに通れない橋。何だか不思議な気持ちでした。橋が通れなくなるだけで、こんなに不便になるとは思ってもいませんでした。

その工事の内容は、老朽化した橋を新しくするということでした。この工事費は税金から払っていると母に聞き、私は税の大切さを改めて感じました。

そこで私は、税金が他にどんな事に使われているのか気になり、インターネットで調べてみることにしました。

調べた結果、税金はたくさんの事に使われていました。警察、消防、救急車等の公共サービス、教育費などに税は使われているそうです。

他に、交通、福祉、伝統的建築物の保全などに税が使われています。

もし、税がなかったらどうなるのでしょうか。

交通面が不便だと、生活していく上で、様々な支障がでると思います。福祉が充実していないと、老後が大変になります。文化を保全しないと今までの伝統を崩してしまいます。このように税の無い暮らしを想像したら私達の生活に欠くことのできない、大切なものだとわかってきました。

そうして視点を変えれば、税は、交通では、町と町をつなぎ、福祉では親と子をつなぎ、文化の保全では過去と現在、未来をつないでいく、とても大切なものなのだと思います。

このように考えると、税金は私たちをつなぐ橋のようなものかもしれないと思いました。大人が税を納めることによって学校ができ、私たち子どもが教育を受け、成長して大人になります。そしてまた税を納めることで医療や道路、行政サービス、警察、消防など、地域の人に役立つことに使われ、たくさんの人を喜ばせることができます。人と人、町から町へ、時を超え、過去、現在、そして未来をつなぐ橋、そのものです。

一人一人の力は小さいかもしれませんが、集まれば大きな力になる、それが税なのだと思います。

税は、現在だけでなくその先の未来へも引き継がれ役立っていくものなのです。それを引き継ぎ、快適な生活を送るためには、私達一人一人が税を払うことから始まってきます。だから私も将来は責任をもって税を納めたいと思います。そして今後も、税のありがたみを感じながら生活していきたいです。